

富山県高P連会報

第 105 号
2011.9

編集発行
富山県高等学校PTA連合会
発行人 会長 毛利 一朗
富山市千歳町1-5-1
富山県教育記念館41号
TEL 076(432)2810
FAX 076(432)1501



命をつなぐ

富山県高等学校PTA連合会
会長 毛利 一朗

今年3月、高校の卒業式も終え、子どもたちは新たな道に多少の不安を抱きながらも希望に満ちていました。まさに新年度に向けて国中が例年の歩みを進めていた11日、東日本を大きな震災が襲いました。とてもならない畏れと深い悲しみが世界中を包んだ瞬間でした。未だ心は癒えません。犠牲者の方々のご冥福と、被災された地域の1日でも早い復興をお祈り申し上げます。

その大震災から一週間後、全国高P連の呼びかけを受けて本県高P連が被災地への義援金のご協力をお願いしたところ、短期間のうちに多額のご厚意をいただきました。全国高P連全体では、1億円近い金額が集まり、被災した青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県の各高P連にこの義援金を配分させていただきました。

した。ありがとうございます。

さて、この夏、全国高校総合文化祭が福島にて、全国高校総合体育大会が東北各県で開催されました。開催の多くは被災地であり、開催が危ぶまれた地域もありましたが、地元の高校生をはじめ多くの方々の熱意で見事にやり遂げられたと伺っております。例年以上のご苦労があったことでしょう。その二つの全国大会が、来年度はともに富山県で開催されます(高総文祭は本県単独開催、高校総体は本県を含む北信越ブロック開催)。高校生時代の部活動の集大成として、また来年の大会成功に向けて大勢の高校生が富山から参加し、それぞれに感動を覚えて帰ってきてくれました。そうした明日に向けて活動している子どもたちの姿を見て、「大人もがんばらなければ」と

いう思いを新たにしました。PTAでも来年度は、北信越大会を富山で開催いたします。準備から開催まで、ご協力をお願いします。準備が多々あると思いますが、来年7月6・7日の開催に向けてご理解とご支援をよろしく願います。

今年8月末、全国高P連大会北海道大会において、「命をつなぐ!」と題した前旭山動物園園長の小菅正夫氏の講演をお聞きしました。いろいろな動物たちの子孫を残す競争、いかに動物によって子育てが違うかというお話をお聞きし、命をつなぐ大切さを実感いたしました。そして動物たちの営みを、ヒトの子育てに繋げて考えたとき、震災を経験し、残った子どもたちが今も懸命に仲間とともにがんばっている、私たち大人も希望を見失ってはならないと思うのです。高校を卒業すると、子どもたちは、就職・進学していきます。高校は、子どもたちにとって保護者の元を離れる準備期間だと感じています。高校時代の内に、一緒にいて多くのことを伝えておきたいという思いは皆さまもお持ちではないでしょうか。震災を共に経験した年であるからこそ「命をつなぐ」、こんな事も伝えて頂ければと思います。

最後に、高校統廃合により本年度を最後とする5校のPTAの皆さま、あとわずかとなりましたが活躍を期待しております。そして、ありがとうございました。

平成23年度定期総会開催

6月2日、富山電気ビルにおいて、平成23年度県高P連の定期総会が240名の参加を得て開催され、新役員が次のとおり選出されました。

- 顧問 大橋 聡司
- 会長 毛利 一朗(富山)
- 副会長 千田 記也(魚津) 江西 照康(富中) 西能 徹(高岡) 瘡師富士夫(砺波) 加藤 一郎(富中)
- 会計監査 宮本 真治(富商) 柴田 正伸(石動)
- P側理事 村上 祐(入善) 越前 哲男(桜井) 城戸 義則(滑川) 織田 伸一(富工) 河西雄一郎(富東) 勘坂 清治(高工) 山崎 肇(高商) 松嶋 浩二(高南) 川邊 一彦(砺工) 橋爪 政信(南砺福野)
- T側理事 筒井 慎一(魚津) 新夕 義典(滑川) 山崎 弘一(富山) 中島 節治(富工) 清水 稔(富い) 清水 好勝(高岡) 石原 大三(高商) 高谷 純夫(高南) 神田 浩(砺波) 橋本 芳夫(南砺福野) 高田 幹夫(雄峰)
- 幹事 國木 崇司(泊) 大村 年和(魚工) 村井 直人(富西) 五艘 孝芳(富東) 松平 健二(呉羽) 松井 均(小杉) 黒田 太穂(大門) 永井 衛(伏木) 滋野 博之(とらみ野) 中山 良一(南砺平) 本江 孝一(雄峰) 芹川 勝(事務局)

新企画

共学共育

他校・他地区のPTA活動に学ぶ

他校のPTA活動を知ること、各校の保護者が今、高校生段階の子どもたちとどのように関わろうとしているのかという情報を共有し、次世代を担う子どもたちを共に育て、共に学んでいきましょう。

高岡高校PTA

「親子・先生の絆を深めるPTA活動」

本校PTAは、全体委員と一般会員からなり、全体委員会は会長1名、副会長9名、監査委員3名、クラス委員42名から構成されています。役員とクラス委員は、広報委員会・保健委員会・生徒生活指導委員会の3つの専門委員会および学年委員会に所属しています。広報委員会は、PTAだよりの発行、保健委員会は学校保健委員会への参加、生徒生活指導委員会は、さわやか運動への参加や地区少年補導員としての活動を行っています。

本校では、保護者の学校に対する期待や関心が高く、毎年恒例のPTA総会、体育大会、文化祭には大勢の保護者が出席します。また、人間の生き方を考える機会としての講演会、豊かな心を育む芸術鑑賞会等の学校行事についても、保護者の参加が多く、親子で同じものを見、聴き、感動し、家庭で感想を述べあったり、人生観や夢を語り合う機会づくりと

なっています。

本校の特徴的な活動に、「親子で進路について考える活動」があります。7月には、職業理解講座、進路講話を実施しています。職業理解講座では、実社会で活躍の経験豊富な同窓生・保護者を招き、専門分野におけるいろいろな経験談・思いを親子に語ってもらい、子どもの視野の拡大、自己発見、進路設計の機会にしています。進路講話は、外部から講師を招き、PTA全体委員会で、進路に関する情報および保護者としての心構えについて話を聞きます。大学入試のしくみや受験に対する親の心構えについて考えるよい機会になるとともに、子どもと話し合うきっかけにもなっています。



もう一つの特徴的な行事は、学年PTA研修会です。「学習と進路」をテーマに、3年生は7月、1・2年生は10月に実施しています。それ

ぞれの学年に応じた学校側から説明を受け、質疑応答の後、個別面談により、保護者と先生が率直に意見を交換しあうよい機会になっています。

その他にも、総会・役員会の折りに、授業や部活動を垣間見たり、色々な機会に学校を訪れ、子どもたちの活動が見られるように計画しています。子どもたちを巻き込んだPTA活動の中から、多感な成長期にある子どもたちの、通常見えにくい部分を掴み、保護者として子どもとの適切なスタンスを保つ手がかりとしたいと思っています。

高岡高校PTA会長 西能 徹

富山工業高校PTA

本校では、広報・研修・生徒生活指導の三つの委員会により活動しています。

広報委員会では、年二回のPTA通信を発行しており、学校行事や各部活動の活躍等について、写真撮影・原稿作成を行っています。今年度は三年に一度開催される富工展（学園祭）もあり、特別号を発刊する予定です。また、特集記事ではアンケート等を実施していま



す。卒業直前の親への思いを込めた川柳では、「ユニホーム、洗ってくれて、ありがとう」、「三年間、毎日弁当、ありがとう」と面と向かっては伝えられない生徒の気持ちを紹介したり、家庭像調査では、『家庭内に恐れ存在の人はいない77%』と今どきの家庭像が浮かび上がりました。

研修委員会では校内外で研修会を行っています。校外研修会では、今まで就職先でお世話になっている県内企業や進学実績のある大学や専門学校等をピックアップして見学会を実施し、在校生の進路指導に向けたパイプ役を推進しています。また、校内研修会では生徒理解のための講演会等を実施しています。

生徒生活指導委員会では、「さわやか運動」に積極的に参加しています。正門や大学電停前で、登校してくる生徒に対して元気な声での呼びかけや服装の正しい着こなし、自転車通学者に対するマナー向上についての取り組みを行っています。保護者としては、生徒一人一人の朝の様子から、普段の学校での生活をうかがい知る良い機会だと思っています。



本校では、数年前までは遅刻者の数が多かったのですが、学校と家庭との連携した対応などの取り組みが功を奏して減少しました。服装や態

度については、教職員や保護者が同じ考え方で指導や注意をすることが大切です。その上で、挨拶や身だしなみ、言葉遣い等について何故このようにしなければならないのかを生徒に理解させることが大切です。富山工業高校の生徒の多くが卒業後直ちに社会人になることを考えると、自主性や社会性について指導することができ最後の三年間となるわけで、将に学校と保護者が連携して取り組むことが求められていると思います。

富山工業高校PTA会長

織田 伸一

新川地区指導者研修会に参加して

6月21日(火) 魚津高校において「家庭教育の充実とPTA活動について」を研究主題に平成23年度新川地区指導者研修会が開催されました。

第一分科会では「高校教育とPTA活動」と題し、魚津高校横田副会長から、三つの専門委員会を中心に、保護者と教師が緊密に提携しながら生徒と本音で向き合う大切さについて、第三分科会では「雄山高校の生活指導とPTAの取組」と題し、浦田会長から、生徒を中心とし保護者と教師の第三者で築く活動「PTA Sしやべり場」の取組について、第四分科会では「親子のコミュニケーションの促進―心豊かな社会の実現をめざして―」と題し、桜井高校の越前会長から、よりよい教育環境を作るために積極的に学校とコミュニ

ケーションを取り、支援、協力していく必要性についての報告がありました。

分科会終了後、魚津警察署生活安全課少年補導員の堀田聖子氏による「少年補導の現場から」を演題にご講演をいただきました。子供を被害者にも加害者にも



させないため、子供のサインを見逃さないためにも、日頃の会話を大切にし、折に触れて常識やルールについて話す機会をもつことが大事だと改めて感じさせられた講演でした。

研修会に参加して、各校の特色を生かした活動や指導に深い感銘を受けるとともに、PTAの役割の重要性を再確認させられました。



本校PTAにおいても、五つの専門委員会を組織し、県内外へのPTA大見学会や進路講演会、年二回の広報誌の発行など様々な活動を展開しています。また、昨年度は文化祭へPTA模擬店として参加しました。今回の各校の報告を参考に、今後もさらに創意工夫を施したPTA活動に取り組み、本校の教育活動の推進に協力していきたいと思えます。

入善高校PTA副会長 寺西裕子

富山地区指導者研修会

日時 6月30日(木)

会場 富山工業高校

分科会と発表校

第1分科会 高校教育とPTA

富山高校 毛利一朗会長

第2分科会 進路指導とPTA

大沢野工業高校

突田重勝会長

第3分科会 生活指導とPTA

富山北部高校 水口大倫会長

第4分科会 家庭教育とPTA

雄峰高校 宝田智子会長

講演 「八尾の住まい・まちづくりと八匠の取り組み」
(社) 八匠理事長 石原 博氏

高岡地区指導者研修会

日時 6月15日(水)

会場 ウィングウイング高岡

分科会と発表校

第1分科会 高校教育とPTA

高岡高校 西能徹会長

第2分科会 進路指導とPTA

高岡西高校 桐井健一会長

第3分科会 生活指導とPTA

高岡工芸高校 勘坂清治会長

第4分科会 家庭教育とPTA

高岡商業高校 山崎肇会長

講演 「競争社会と学校」
前射水市教育長 山下富雄氏

砺波地区指導者研修会

日時 6月22日(水)

会場 砺波市農業改善センター

分科会と発表校

第1分科会 高校教育とPTA

小矢部園芸高校

本田徳成会長

第3分科会 生活指導とPTA

南砺総合高校井波高校

中川一雄会長

第4分科会 家庭教育とPTA

砺波工業高校 川邊一彦会長

講演 「客の心になりて」
砺波市美術館長 小野田裕司氏

東日本大震災

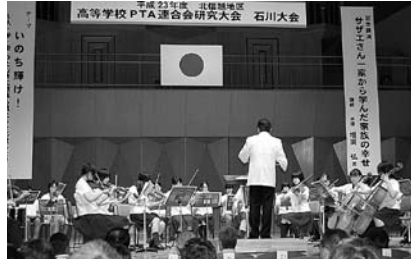
義援金募金報告

県高P連会員の皆様より多くの善意が寄せられ、義援金の総額は3,958,472円となりました。義援金は、6月25日に開催されました平成23年度全高P連通常総会当日に、全国から寄せられた総額96,494,544円を全高P連の高岡会長より被災地の宮城県、岩手県、福島県、茨城県、青森県の各県連会長に直接手渡しされました。

皆様のご協力に感謝いたします。

北信越地区高P連 研究大会石川大会

平成23年度北信越地区高P連研究大会が「いのち 輝け！」をメインテーマに7月8日、9日に金沢市の石川県立音楽堂を主会場にして開催され、北信越5県から会員約1300人が、富山県からは182名参加しました。一日目は開会式・歓迎アトラクション・分科会が行われました。金沢辰巳丘高校管弦学部の演奏では、東日本大震災の犠牲者追悼の曲が演奏されました。分科会では、富山県の4校からも実践例をもとに各校が参考となる内容の発表が行われました。二日目は、声優増岡弘氏が「サザエさん一家から学んだ家族の幸せ」と題する記念講演が行われました。閉会式では、次年度開催県である富山県の毛利会長より富山弁を交えての挨拶があり、閉会となりました。



本県の分科会発表者は次の方々です。
◎分科会発表者
第1分科会（高校教育とPTA）
 「農業教育とPTA活動」
 小矢部園芸高校PTA会長 本田徳成
第2分科会（進路指導とPTA）
 「本校の進路指導とPTA活動」
 大沢野工業高校PTA会長 突田重勝

第61回全国高P連大会 北海道大会

第3分科会（生徒指導とPTA）
 「家庭との共通理解をはかる
 生徒指導の取り組み」
 新湊高校PTA会長 八嶋浩久
第4分科会（家庭教育とPTA）
 「親子のコミュニケーション」
 桜井高校PTA会長 越前哲男

「いのち 輝け！ ～人・夢・愛 ひとむきに頑張る君たちを応援したい」をテーマに第61回全国高P連大会北海道大会が8月25日、26日の両日、「北海きたえーる」を中心に開催されました。全国から約1万人、富山県からは108名が参加しました。一日目は高校生による吹奏楽や和太鼓の演奏の後、開会式が行われ、相川順子全国高P連会長による式辞、等浩史文科大臣政務官、高橋はるみ北海道知事などの祝辞があり、その後、表彰式が行われました。

続いて、精神科医の香山リカ氏より「生きる力をつける処方箋」と題する基調講演が行われました。香山氏は、最近の傾向は、どこにでもいるいつもは問題のない良い子が、ある日突然豹変し様々な症状が現れてしまうと精神科医の立場から話されました。

午後から分科会（4分科会・3特別分科会）が札幌市民ホールなどで開催されました。情報社会とPTAの部会では、「出会い系に潜む罠」をめぐって札幌北陵高校演劇部が問題提起を行いました。二日目は、前旭山動物園園長の小菅正

夫氏より「命をつなぐ！」と題する記念講演が行われました。小菅氏は、どんな生きものも命を次の世代へ引き継ぎ、未来へと繋げて行こうとして生きている。今、生きているということは、未来へ命を繋ぐバトンタッチの場であると述べていました。閉会式では、次年度開催県である和歌山県より挨拶があり、閉会となりました。



高校生による「蝦夷太鼓」

参加者の声
 ・全体会場となっていた北海きたえーるには全国から約8000人が集まりましたが、残念ながら富山県連合会はサブアリーナでの視聴となりました。大会役員の言葉から未曾有の大震災から大会に漕ぎ着けることができた格別の思いが伝わってきました。また大会テーマ「いのち

ち輝け！」は被災地の復興を願う魂の叫びにも聞こえました。式典後の「生きる力をつける処方箋」と題した精神科医の香山リカ氏のお話は興味深く聞きました。最近の子どもたちの傾向として、自分に自信が持てず、みんなに好かれるために演技していて、ちょっとした失敗で傷ついてしまうそうです。確かに身近で思い当たるフシがあります。私たち大人も自分の人生を受け入れ、マイナスマ面も「自分らしさ」と受け止め、心にゆとりを持って子どもと向き合っていかななくてはならないと再認識しました。

砺波高校PTA会長 瘧師 富士夫

平成二十三年代表彰

- ▼北信越高P連表彰受賞者
 - 加藤一博（前県高P連副会長）
 - 尾山 誠（前県高P連理事）
 - 澤田淳一（前県高P連理事）
 - 出合和仁（前県高P連理事）
- ▼全国高P連大会会長表彰
 - 団体 魚津工業高校PTA
 - 南砺福野高校PTA
 - 個人 大楠匡子（前県高P連副会長）
 - 森 啓祐（前県高P連理事）

編集後記

県高P連会報第105号の発行に際し執筆・寄稿して頂いた皆様には心より感謝申し上げます。今回、今迄と誌面を少し変えてみました。より多くの学校からのより多くの情報を皆様にお伝えしたいと考えています。御一読ください。

（会報編集委員長 村上 祐